

施設(老人保健施設)よりショック状態で救急搬送された症例

南部徳洲会病院 2 年次研修医 (石垣島徳洲会病院 離島研修中) 鈴木 誠之

2 日前より発熱あり、施設にて解熱剤投与で経過観察され、当日呼吸状態の悪化より急激にショック状態へなったために、当院救急搬送された患者さんに関して症例報告する。

71 歳女性、以前よりパーキンソン症候群および認知症にて老人保健施設に入所中 (平成 19 年 2 月より)、ADL は車椅子、胃瘻増設されており、コミュニケーションは不可。類天疱瘡にてステロイド内服中 (プレドニン 25mg/day) であった。平成 19 年 10 月 17 日から 37 度台の発熱あり、18 日から 38 度台へ上昇、19 日 15 時 30 分ごろいったん解熱したが、16 時頃より急激に呼吸状態が悪化し、顔面蒼白、悪寒戦慄出現。意識レベルの低下及び、血圧測定不能のショック状態となり、酸素投与 (マスク 8L まで贈) するも SPO₂ 83% と改善せず、救急要請となり当院へ搬送された。

以上症例に関して当日検討・考察する。